

保育における質の高い かかわり・環境構成を支える要因 ～全国保育・幼児教育施設調査 1歳児クラス担任票の分析から～

高橋翠，淀川裕美，野澤祥子，村上祐介，遠藤利彦，秋田喜代美
東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター

Email: midorit@p.u-tokyo.ac.jp



【問題と目的】

- 保育・幼児教育施設における環境構成やかかわりの質は，子どもの認知・言語発達や社会情緒的発達に長期的に資する（Mashburn et al., 2008；Vandell et al., 2010；Taggart et al., 2015）
→質の高い「環境構成」「かかわり」を予測する要因とは？
- 先行研究：
専門課程教育や学歴（Honing & Hirallal, 2006；Fuligni et al., 2009；Whitebook et al., 1993）や研修（Burchinal et al., 2010）、賃金や離職率などの労働環境の質（Hustman, 2008）の重要性
→我が国では職務負担の大きさや給与水準の低さといった保育者の労働環境が問題視されている（例. 垣内ほか，2015）
- 保育の質に対する園長や主任等の管理職のリーダーシップの役割（Siraj-Blatchford & Manni, 2007）
- 本研究：
2015年度末に東京大学発達保育実践政策学センターで実施した全国・保育幼児教育施設大規模調査のうち，
1歳児クラスのかかわり・環境構成の質尺度得点を取り上げる。
→施設形態や保育者の基本属性（年齢，性別，保育者としての経験年数）を統制した際の，
学歴，研修，管理職（園長・主任）のリーダーシップ（保育の質向上のための取り組み），労働環境（職務負担感）の効果に着目した。
→園長・主任票との紐づけが行えた約2200園が分析対象

【方法】

- 各施設の園長、主任、担任（1・3・5歳児担任）に回答を求めた



9

調査項目

- 基本的属性（施設形態、学歴、性別、保育士資格）
- 職務負担感
- 研修（園内研修頻度と内容、園外研修参加頻度と支援）
- 管理職のリーダーシップ
- 保育の質（かかわり・環境）

園内研修・職員会議の実施頻度職員会議の内容

- a 外部講師による講演
- b 園長・副園長等による講演・講話
- d 子どもの姿を中心とした話し合い
- e 保育カリキュラム
- f 素材・教材
- g 保護者対応
- h 障がいのある子等の受入れ・対応

園外研修の参加支援

- a 研修費用を捻出している
- b 参加する時間を確保している
- c 研修参加中に代替職員を配置する
- D 研修への参加を奨励している

労働環境にまつわる負担

- 休憩時間を十分に取れないこと
- 労働時間の長さ
- 日常的な休暇を取りにくいこと
- 事務的作業の多さ
- 給与が十分でないこと
- 育児休暇や介護休暇等の、特別休暇を取りにくいこと
- 保育士の不足

子ども・保護者対応にまつわる負担

- 気になる子どもへの対応
- 自分と保護者の、子どもに対する理解の違い
- 一人ひとりの子どもとの関わりを十分に持てないこと
- 自分と、保護者との関係

素材教材・研修時間の不足にまつわる負担

- 十分な素材や教材を使用できないこと
- 研修時間を十分に確保できないこと

園の人間関係にまつわる負担

- 自分と、園長や主任等の管理職との関係
- 自分以外の、他の同僚同士の関係

①組織の運営・園の風土

- 職員の仕事に対する意見や要望等を尊重している
- 職員が意見等を出しやすい雰囲気を作っている
- 職員がやりがいを持って働き続けやすいよう支援している

②専門性向上の支援

- 保育制度や政策に関わる情報収集を積極的に行っている
- 保育実践に関わる書籍や保育雑誌を積極的に購読している
- 園外研修や学会等に積極的に参加している

③日々の保育実践の援助

- 保育計画や保育日誌等の内容を確認している
- 新任の保育者に子ども等との関わりを指導している
- 園内を回り、子どもや保育者の様子を見ている

④方針・理念の明示

- 園の経営理念・方針を明確に示している
- 園の保育理念・方針を明確に示している

⑤保護者との連携

- 保護者からの要求・要望に応じている
- 保護者からの要求・要望に率先して対応している

環境構成の質	かかわりの質
2-m遊び場に子どもの発達状態に合った遊具等を用意している	3-w子どもが思いを率直に表現できるようにしている
2-l室内外に、五領域での経験を保障する遊具等を用意している	3-g子どもたちの悲しみや怒り等の感情表現を受け止めている
2-o遊具・道具等を子どもの興味関心を引くように配置している	3-i子どもが新しい挑戦をしている時は必要に応じて援助する
2-q遊びの用途が限られていない遊具等を十分に用意している	3-kいざこざの場面で両方の思いを聞いて子ども同士をつなぐ
2-f保育室の環境は子どもたちにとって居心地の良いものである	3-x子どもの月齢や発達の状態に応じて適切な言葉を用いている
2-s手や指を使って遊べる遊具・道具等を十分に用意している	3-d子どもたちの状態や興味関心に気を配っている
2-n遊び場に子どもの人数に合った遊具等を用意している	3-y子どもの思いや経験に共感しながら言葉で表現している
2-j歩き始めの子がつかまり立ち等できる環境を工夫している	3-t子どもが、自発的に生活習慣を身につけられるよう援助する
2-i安全性を考慮して、自力であることを補助する設備等がある	3-v子どもが自由に探索活動できるよう、見守っている
2-p遊具・道具等を子どもの興味関心に応じて入れ替えている	3-e子どもたちが求める時は敏感に応じている
2-t日常生活での経験を遊びにできる遊具等を用意している	3-u子どもが遊びに夢中になっている時見守りや場の保障をする
2-c室内に、くつろぎの場として休んだりできる空間がある	3-j保育士と子どもの考えが異なる時子どもの思いに耳を傾ける
2-dくつろぎの場は活動的な遊びに邪魔されない所にある	3-l集団の遊びに入りたくない子どもが興味を持つよう工夫する
2-k家具や遊具・道具等子ども自身が扱えるよう工夫している	3-p子どもたちに、遊びや生活のきまりを丁寧に伝えている
2-e室内に異なる遊びや活動のためのコーナーを複数設けている	3-q遊びや生活のきまりについて理由をわかりやすく伝えている
2-h個別的なケアをするために適切な家具や設備がある	3-h子どもたちの喜びや感動表現に対して肯定的に対応している
2-g遊びや活動の空間を、必要に応じて再構成している	3-c子どもたちが自分の考えや欲求を表現しやすい雰囲気である
2-r遊具等の大半を子どもがすぐ使える場所に配置している	3-rきまりを理解していない子どもに理解できるよう援助する
2-b室内に、ハイハイしたり歩き回れる空間が確保されている	3-b保育士の子どもたちへの接し方は温かいものである
2-v室内に身近な生活や文化にかかわるものを展示している	3-s子どもへのかかわりや配慮について保育士間で考えを共有
2-w室内にクラス進行中の遊び等にかかわるものを展示している	3-o子どもが遊びや活動の中で様々なことを試せるようにする
2-z室内外の設備や遊具等に異常がないか積極的に点検している	3-f子どもに個別に話しかける際、目線の高さを合わせている
2-u室内に、季節や自然を感じられるものを展示している	3-m集団の遊びに入りたくない子どもは別の活動できるよう工夫
2-a園庭などの体を動かす遊びのできる環境が確保されている	3-n子どもが好きな遊びや活動を選択できるようにしている
	3-aクラスは落ち着いてくつろいだ雰囲気である

【結果】

- 重回帰分析（ステップワイズ法）を実施した
 - ➡分析のモデル：ステップ1で施設の変数を投入した後、ステップ2で残りの変数を投入

【考察】

- 2つに共通する点：
 - 園での人間関係と子ども・保護者対応にまつわる負担感が高いほど、かかわり・環境構成の質評価が低い
 - 職員会議・園内研修において「保育カリキュラム」をよく取り上げている園ほど担任の質評価が高い
 - 園長、主任のリーダーシップはそれぞれ質評価の高さと関連
- 環境構成について：
 - 施設形態による差（認可外保育施設、小規模保育所は認可保育所に比べて質評価が低い）
- かかわりの質について：
 - 労働環境にまつわる負担が負の効果
 - 経験年数がプラスの効果
 - 女性の方が質評価が高い

【今後の展望】

- 自己評価と客観的評価との関連性を検証する必要がある
 - ➡質評価スケール、センシング技術

【環境構成の質】

モデル		B	B*	t 値	有意確率
1	(定数)	3.703		225.287	.000
	小規模保育所	-.116	-.056	-2.583	.010
	認可外保育施設	-.195	-.119	-5.394	.000
	認定こども園	.038	.028	1.267	.205
7	(定数)	3.542		23.925	.000
	小規模保育所	-.190	-.092	-4.535	.000
	認可外保育施設	-.227	-.138	-6.735	.000
	認定こども園	.015	.011	.547	.585
	園内の人間関係	-.038	-.122	-5.537	.000
	主任リーダーシップ	.005	.089	4.483	.000
	子ども保護者対応	-.018	-.096	-4.400	.000
	園長リーダーシップ	.004	.068	3.284	.001
	職員会議・園内研修での取上げ	.038	.058	2.846	.004
	e 保育カリキュラム				

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗
1	.136	.018	.017
7	.417	.174	.170

モデル		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1	回帰	13.288	3	4.429	13.681	.000
	残差	709.968	2193	.324		
	合計	723.255	2196			
7	回帰	125.538	9	13.949	51.037	.000
	残差	597.718	2187	.273		
	合計	723.255	2196			

【かかわりの質】

モデル		B	B*	t 値	有意確率
1	(定数)	4.260		339.942	.000
	小規模保育所	.052	.033	1.506	.132
	認可外保育施設	-.028	-.022	-1.008	.313
	認定こども園	.031	.030	1.359	.174
10	(定数)	3.715		21.310	.000
	小規模保育所	.015	.009	.451	.652
	認可外保育施設	-.047	-.038	-1.774	.076
	認定こども園	.020	.019	.914	.361
	園での人間関係	-.040	-.164	-7.092	.000
	子ども保護者対応	-.022	-.157	-6.967	.000
	園長リーダーシップ	.004	.078	3.679	.000
	経験年数	.005	.106	5.250	.000
	素材教材研修時間不足	-.030	-.135	-5.647	.000
	主任リーダーシップ	.004	.084	4.188	.000
	労働環境	.004	.061	2.351	.019
	職員会議・園内研修 e	.024	.047	2.277	.023
	保育カリキュラム				
	性別	.137	.041	2.098	.036

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗
1	.051	.003	.001
10	.368	.135	.130

モデル		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1	回帰	1.129	3	.376	1.957	.118
	残差	431.565	2245	.192		
	合計	432.694	2248			
10	回帰	58.454	12	4.871	29.104	.000
	残差	374.240	2236	.167		
	合計	432.694	2248			